

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 3 日（土） 18：30～20：44

場 所：南部公民館

出席者：21 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※資料確認
3. 説明事項
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
※質疑応答
4. 懇談 7
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）
※自由懇談・質疑応答
5. 閉会

《懇談会内容》

意見：人口減少に伴い町内会の成り手がない。再編が必要になっていると感じている。

提言：まちづくり協議会で補助金がついているが、町内会の事業などで自由に使える仕組みではない。まちづくり協議会単位だけでなく、町内会で自由に使えるようにしてほしい。

町長：継立、角田は連合町内会＝まちづくり協議会となっているが、市街地では複数の町内会でまちづくり協議会を構成している。補助金のルールは工夫をする。

意見：若い世代に町内会に参加してほしい。

町長：子育て世代への政策や地域の情報発信を行い、若者定住の促進を図ることで、地域への参加を促したいと考えている。

質疑：いきいき交流プラザ（サンタの笑顔（ほほえみ））などの事業では、高齢者の負担が大きい。民生委員児童委員の役割も多く、もっと委員を増やせないか。

福祉課：民生委員児童委員も成り手不足の問題がある。推薦をいただければ来年 12 月の改選の際に、増やすことも検討できる。

意見：南部地区は夏まつりなどのイベントが多く、常に人手不足の状態にある。ご理解をいただきたい。

質疑：農家の空き地が荒れてきており、新規就農者も見つからない。新規就農の増加と空き地の活用に対する町の考えがあれば伺いたい。

産業振興課：農業委員や地域住民の方に耕作していただいているが、十分ではない。新規就農者においては全国各地で希望者の面談を行い募っている。今後も取り組みを継続し、新規就農者の獲得を目指す。

町長：新規就農者との話し合いの場を設けてほしいといった声もある。要望を調整に反映したいと考えている。

意見：近隣４町でも大きな町なので、栗山町スキー場の存続を希望する。

質疑：由仁、長沼、南幌の病院は赤字なのか。

福祉課：３町とも赤字。医師確保や老朽化も共通の課題となっている。

質疑：日赤の累積赤字３０億円は栗山町が返済するのか。

町長：あくまで日赤の赤字であり、返済も日赤が行う。

要望：コミュニティバスは便利だが、土日は走らない。また、夏祭りや秋祭りの際にも夜間は走っていない。イベント時だけでも構わないので夜間の運行を行ってほしい。

建設課：平成３４年度にバスの路線などの見直しを計画している。町民の意見をアンケートなどの実施により吸い上げ、反映させる予定である。

意見：子育て世代の懇談会の出席率が低い。何か出席を促す手立てはないのか。

町長：子育て世代の意見を伺う機会は重要と考えている。審議会には若い世代の方も入っているが、今後もそういった機会を作りたいと考えている。

質疑：町外から町内に仕事で通う人が多いと聞く。町内で働く人の家賃を補助できないか。

町長：町内で就労する方の内８００人程度が町外から通っている。家賃が高いという声も聞いている。

副町長：若い世代の補助制度を若者定住推進課で行っている。移住者向けの住宅支援制度を平成２７年度より実施しているところである。

意見：日赤は検査結果が遅いなど、苦言を呈する町民が多い。日赤を建て替えして通う人はいるのか。町外に通うのではないか。

町長：町内に医療機関は必要と考えている。公金を投じるならば、町民の声を聞き改善してもらうことが必要と考えている。

提言：栗山町スキー場を廃止するならば、町外の利用の際に補助できる仕組みがあると良い。

意見：災害時、避難所の開設により葬儀会場が使えなかった。

町長：今回の震災では１６カ所の避難所を開設し、約７０人の町民が避難や物資の受け取り、電源の利用に訪れた。今後、葬儀とのバッティングがないように調整したい。